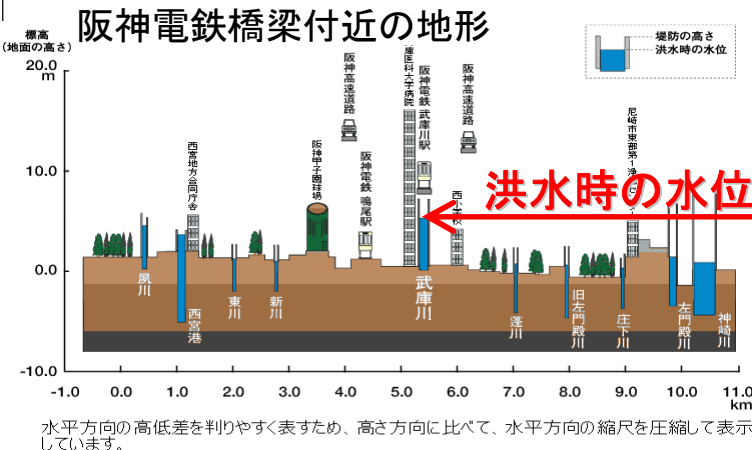


下流部築堤区間の課題

仁川合流点より下流は、堤防により洪水氾濫を防ぐ築堤区間となっており、仁川合流点より上流の掘込区間と違い、ひとたび堤防が決壊すると、甚大な被害が想定される

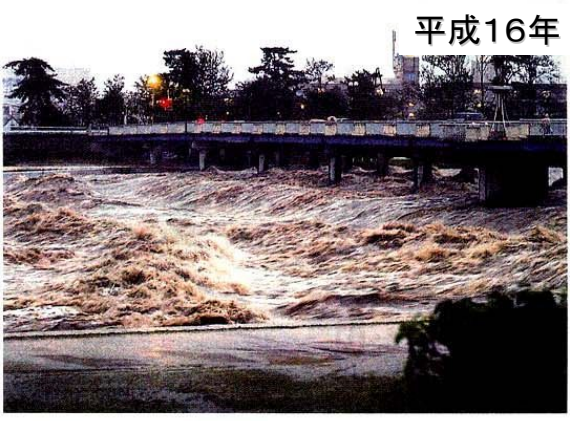


河川改修事業のきっかけとなった昭和58年洪水



堤防の決壊には至らなかったが、昭和62年より進めてきた河川改修事業の目標流量 $2,600\text{m}^3/\text{s}$ を超える規模の洪水 $2,900\text{m}^3/\text{s}$ が平成16年に発生

武庫川増水 住民ら避難



平成16年 台風23号



生瀬



阪神電鉄上流

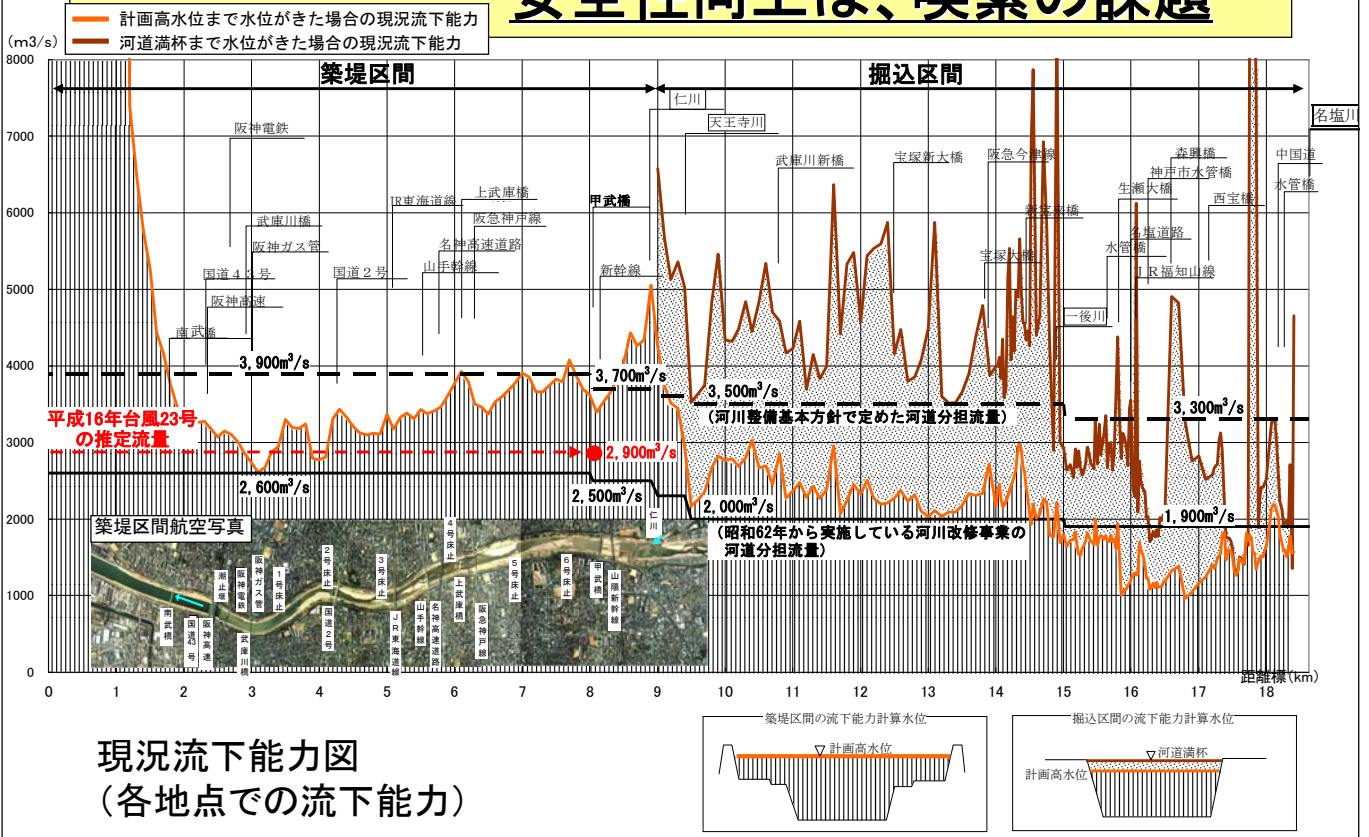
道路崩れ、橋流失

「過去10年で最高の」

神戸新聞H16.10.21

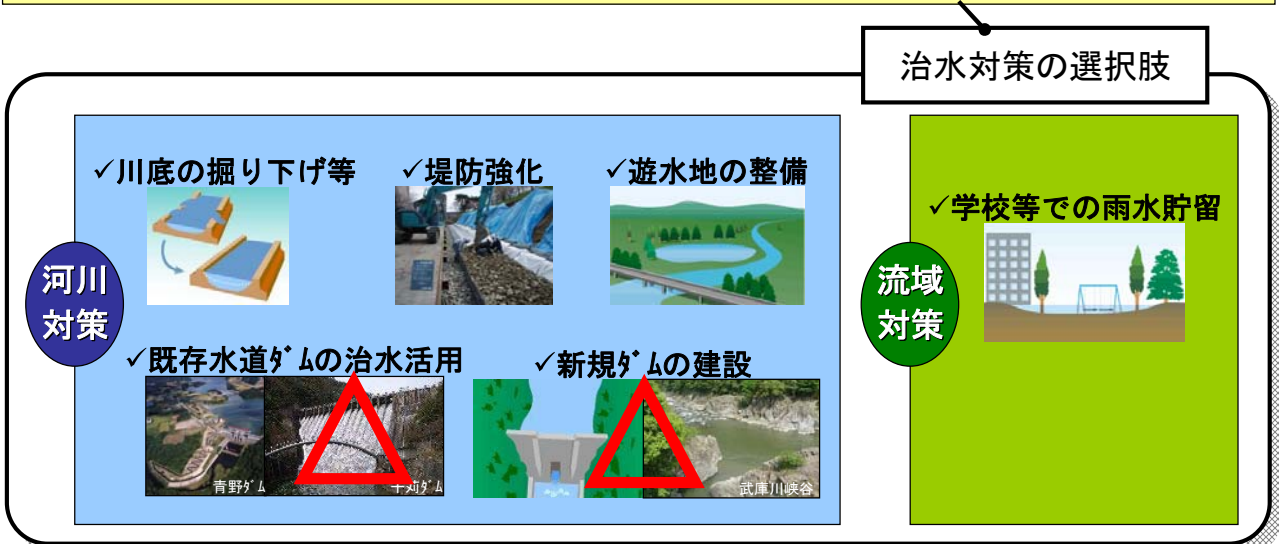
大型で強い台風23号は二十日から夜にかけて、阪神間でも猛烈な暴風雨を降らせた。暴風雨で武庫川を越え、増水。西宮、宝塚、川西市などで計約二百二十世帯、計七百二十人が避難指示を受けた。この学校などは避難した(同日午後八時現在)。各地で川沿いの道路が崩れ、つり橋が流失する。翌日から続く台風の中でも、とりわけ大きなつり橋を流失させた。

① 築堤区間における流下能力の低い区間の安全性向上は、喫緊の課題



治水対策選定の考え方

どのような治水対策を組み合わせれば、基本方針の整備目標である4,690m³/sに向けて、
② 早期に安全性を向上できるのかについて検討



千叡ダムの治水活用 や 新規ダム建設 の課題

(1) 合意形成に多大な時間を要する

✓千叡ダムの治水活用



神戸市民の水道用水を貯めるためのダム



最近の少雨化傾向を踏まえ、渇水リスクへの対応を不安視する水道事業者との合意形成

✓新規ダムの建設



環境保全に配慮したとしてもなお、ダム選択への社会的な合意形成

(2) 完成するまでに十数年と時間を要し
その間は整備効果を発揮できない



① 下流部築堤区間の喫緊の課題に対応でき ② 早期に整備効果が発揮できる対策の選定

河川
対策

川底の掘り下げ等
(河口～JR東海道線下流等)



(説明用補足資料)資料5-4

堤防強化
(南武橋～仁川合流点)



新規遊水地の整備
(武庫川上流浄化センター内用地)



青野ダムの活用
(予備放流による容量拡大)



(説明用補足資料)資料5-5

流域
対策

学校等での雨水貯留



- ・学校
- ・公園
- ・ため池

(説明用補足資料)資料5-6

下流部築堤区間において、戦後最大洪水の洪水である
昭和36年6月27日洪水の流量を安全に流下させることができる。

(参考)河川対策・流域対策の概算事業費※

川底の掘り下げ等・堤防強化＝約250億円、新規遊水地の整備・青野ダムの活用＝約30億円
学校等への雨水貯留＝約70億円、中上流や支川での改修＝約70億円

※事業規模をわかりやすく示すため、概ねの事業費を参考に記載した。実施時には現地状況を踏まえて詳細に検討し、工法等を決定するため、記載の事業費が変更になることがある。

さらに →

減災対策の実施

本計画の整備目標は、河川整備基本方針の目標達成に向けたあくまで途中段階の目標である。また、近年の気候変動等に起因する集中豪雨も多発傾向にある。



整備目標を上回る洪水や整備途上段階で河川の流下能力を超える洪水の発生に備え、

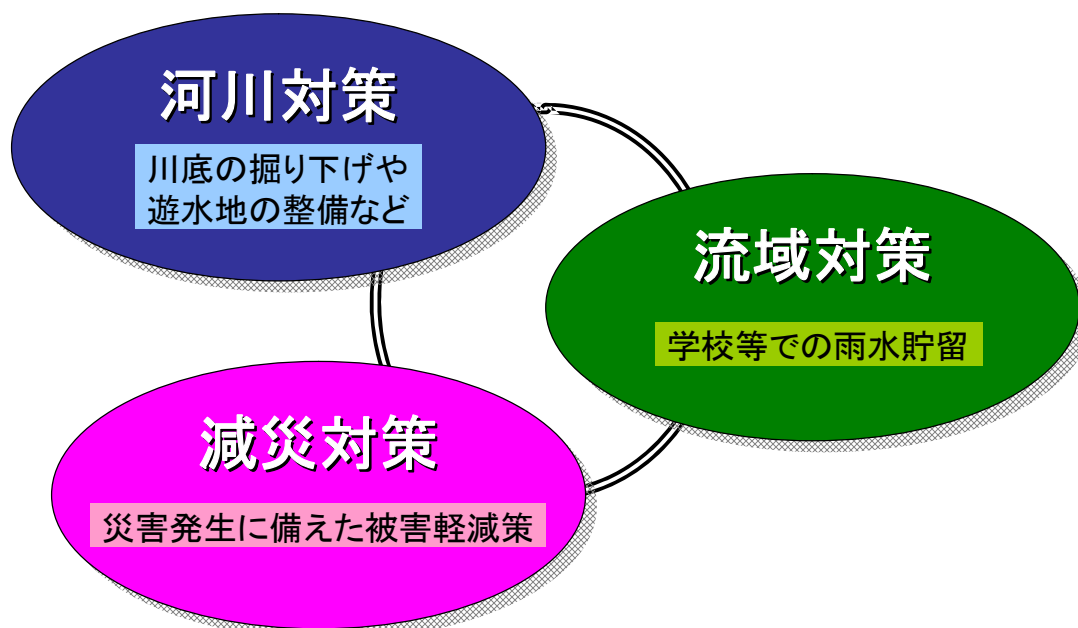
河川対策

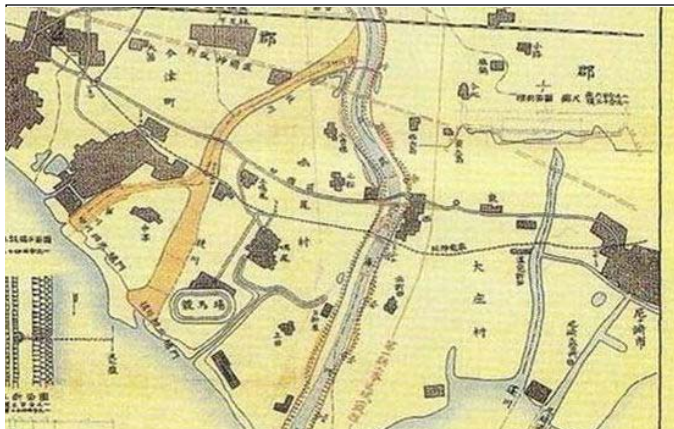
や 流域対策

減災対策

を実施し、洪水被害の軽減を図る

総合的な治水対策





5 総合的な治水対策の推進



5 総合的な治水対策の推進

総合的な治水対策の推進のしくみ



- ① 要綱の制定
- ② 県・流域市で構成する推進協議会の設置
- ③ 共同計画の策定

武庫川流域
総合治水推進計画
【県原案】

平成22年1月
推進協議会

兵庫県、神戸市
尼崎市、西宮市
伊丹市、宝塚市
三田市、篠山市

(説明用補足資料)資料5-8

武庫川の総合的な治水対策総括図



計画期間

河川整備計画の一般的な計画対象期間は
20～30年



早期に整備効果を得るため、
最短の20年に設定